

P8310782.JPG 2019/03/10

慶応四年八月八日より慶応四年八月十二日まで

P8310782right

遺品、湯豆腐器、茶入陶器、小品添持来、蕎麦□分を設く、菱沼勝文通を持来の者あり  
また金策書也、披書の上不在に托し、右書返し遣す、本間氏より紹介にて屋代久善分、老入  
当荘を一見に来る尤面せず

八日子 晴雲

礫姑と共に三児を携へ妙見山並天神八幡社へ詣る、須崎常当荘譲り渡、紹介に来りし旨

富沢叔母孫兒松共に来り、野菜茄瓜並小品持来、午餐を勧む、礫姑携品を勧む

入事須崎常来り、明日横浜出立いたす旨申す□帰りし旨

九日丑 晴

礫姑帰る遺物なりとて妻へ□紋付一領を贈せり、□町へ□女産賀品□放緋縮めん一丈五尺  
金千疋

P8310782left

小品を携へ行く、茶溪邸へ廻り駿州表出立此合の儀、即今難差極旨の書付へ家族人数□

添休左衛門へ渡し、日根野へ持行く様命じ□、薄晩須藤常来り、今日横浜出立明日に相延、  
候旨、且兼て

頼□し一条に付、山田や清次郎への添物持来、休左衛門引合受し趣申聞る、一杯を勧む

十日寅 薄晴

金蔵母来り、同人永の暇を乞候旨也、不面

十一日卯 陰

近日茶溪邸帰る住の都合に決、□した其段金蔵を以申遣す、妻儀次郎を携へ□島辺迄、  
歩に行く前件□□□による也

十二日辰 雨終日

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。